

この「広報ひこね」は47,750部作成し、1部当たりの単価は7円(1円未満切り捨て)です。ただし、原稿作成・編集などにかかる職員の人件費は含まれていません。

連載企画 | 発見 彦根藩の文化財 | 彦根藩の足軽

足軽は「足軽く疾走する歩卒(歩兵)」のこと。戦国時代以降、戦の主力となった集団戦では重要な位置を占めました。

彦根藩では、足軽1、1200人を、鉄砲を扱う「鉄砲組」と弓を扱う「弓組」に分け、さらに鉄砲50人組を1組、同40人組を5組、同30人組を25組、弓20人組を6組の合計37組に編成していました。

この足軽組を預かったのが、千石から三百石取の「物頭」です。彼らは、戦時には「足軽大将」として足軽組の指揮を取る立場にあり、平時においても訓練・組織化して実践に備えさせました。そのほか平時の足軽には、城内番や門番・辻番、普請方への出人(出向)など多様な業務がありました。

彦根藩の足軽は、慶長11年(1606)に設置された下組(中敷組)や善利組を始め、北組(切通組)、上組(大雲寺組)、中組などが、総体として江戸時代の早い段階に整えられました。足軽の住まいは、外堀の外側、つまり城下町のもっとも外側に、城下町を取り囲むように屋敷を連ねており、彦根城と城下町を守護する役割も担っていました。

これら足軽組の中で、もっとも規模の大きかったのが善利組でした。現在の芹橋一丁目・二丁目一帯に相応します。東西約750m、南北約300mを占め、幕末期には約700戸を数えました。現在、江戸時代の建物は1割に満たないまでに減少していますが、間口5間(約9m)、奥行10間(約18m)ほどの短冊形の敷地に、木戸門と目板瓦葺の塀に囲まれた小さいけれども、武家屋敷の体裁を整えた建物を確認することができます。



▶辻番所と江戸時代以来の狭い通り

主屋は切妻造りで、入口を入った土間の奥には、玄関・台所・納戸・座敷が田の字型に構成されています。八畳の座敷には床を付設し、座敷の外には小さいながら庭のあるのが一般的でした。

屋敷の外を走る道は1間半(約7m)と狭く、要所に「どんつき」「くいちがい」など城下町に特有の備えが残り、辻の要所には「辻番所」があつて通りを監視していました。現存する辻番所は1か所のみです。辻に向かつて監視窓が二方に設けられ、今も辻をにらんでいます。

【教育委員会文化財課では、この辻番所と隣接する足軽屋敷を、今年度から文化財としての保存修理を行います。修理後は、地域のまちづくり拠点施設として活用していただく予定です。

問い合わせ先 教育委員会文化財課 ☎26-5833番、FAX 26-5899番、Eメール: bunkazai@mx.hikone.ed.jp

文化財課からのお願い

【教育委員会文化財課では、城下町を写した古写真を探しています。お持ちの人は、【教育委員会文化財課までご連絡ください。よろしくお願ひします。

市民環境フォーラム

「環境のために私たちがしていること、できること」

太陽光発電、ハイブリットカーや電気自動車、バイオ燃料にエコポイントなど、新しい言葉が日常の生活にあふれています。しかし、日々の暮らしが大きく変化するわけでもなく、私たちは環境のために何をしているのか、学校の友達や近所の人たちはどう考えているんだろう、そんな疑問について幅広い世代の人たちと意見交換し、家庭での取り組みなどについて、みんなで考えてみませんか。

日時 8月1日(土) 午後2時〜同5時

場所 ひこね燦ばれす

内容

▼作文発表・表彰 市内の小中学校から選ばれた作文を表彰し、発表します。

作文テーマ 『環境のために私たちがしていること、できること』

▼パネルトークなど 市民がパネルトークを繰り広げます。

定員 100人(先着順)

申込・問い合わせ 【生活環境課

☎30-6116番、FAX 27-03995番

今月の納税

固定資産税(第2期)

7月31日(金)までに納めましょう